

## スポーツによる足部疼痛を来した MTP 関節周囲滑膜炎の 2 例

ガラシア病院 整形外科

山田裕三

大阪大学 整形外科

中田研, 岩橋武彦, 田中美成, 中村憲正

スポーツによる足部疼痛をきたし、保存治療に抵抗した中足趾節間 (MTP) 関節周囲滑膜炎に対して鏡視下滑膜切除が著効した 2 例を報告する。25 歳女性プロテニスプレーヤー (症例 1) と 27 歳女性剣道愛好家 (症例 2) であり、活動性は Tegner activity scale 7 点, 6 点と比較的高かった。外傷歴なく片側 MTP 関節の腫脹疼痛が出現した。他関節の腫脹や疼痛、朝のこわばりはなく、血液所見は CRP 陰性か軽度陽性 (0.5 以下) であった。単純 X 線で異常なく、MRI T2 強調画像にて第 II, III 趾 MTP 関節内と関節周囲に高信号を認めた。保存治療を 4 ヶ月以上行なうも改善せず、歩行にも支障をきたした。症例 1 では、症状の強い III MTP 関節の関節鏡視と滑膜生検切除術を行った。MTP 関節の 2.7mm 径関節鏡視にて増殖滑膜を認め生検切除した。関節軟骨は正常であった。滑膜病理は感染、結核性病変、関節リウマチは否定的で非特異的滑膜炎であった。術後 III MTP 関節の症状消失したが、II, IV MTP 関節の症状持続し、薬物療法に反応せず、II, IV MTP 関節滑膜切除も行い、症状軽快しテニスに復帰した。症例 2 は MTP 関節鏡視では滑膜増殖は軽度で、屈筋腱鞘周囲に滑膜増殖を認め、腱鞘滑膜を切除した。病理では非特異的滑膜炎所見であった。術後、腫脹疼痛は消失し競技再開した。

若年女性の関節炎は、リウマチや自己免疫疾患などの他、感染、腫瘍性疾患などの鑑別を要する。炎症滑膜の評価は MRIT2 強調像が有用であった。足部 MTP 関節は、小関節であるが荷重負荷も強く、今回、活動レベルが高く保存治療の抵抗例に対し、小関節鏡を用いた詳細な評価と治療が有効であった。